

## 巻 頭 言



全国町村会会長 藤原 忠彦  
(長野県川上村長)

### 地域の新しい魅力の発掘

わが国は一昨年（平成 25 年）、初めて訪日外国人旅行者数 1,000 万人を達成しました。昨年（平成 26 年）は、さらに前年比 33.5 %増の 1,341 万人となり、2 年連続で過去最高の訪日外国人旅行者数の更新となりました。政府はこの勢いを継続すべく、東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年に向けて、訪日外国人旅行者数 2,000 万人の高みを目指すこととしています。

そのような中、東京－富士山－京都・大阪を結ぶいわゆる「ゴールデンルート」が外国人旅行者からの人気が高い一方で、ある旅行会社の調査では、個人の訪日外国人旅行者においては、来日が 2 回目以降のリピーターが多いこともあり、定番スポットをはずした地域や泊まったことのない宿を探す傾向があるという結果も出されています。さらに近頃は、スクランブル交差点、絶景ポイントなど、「外国人旅行者に人気の意外なスポット」を紹介する情報番組も多く見られるようになりました。

長野県観光部の調査による、県内市町村別の外国人宿泊者数（平成 25 年）は、白馬村、長野市、松本市、山ノ内町、軽井沢町、野沢温泉村の順に多く、特に最も多い白馬村では、昨年（平成 26 年）一年間の外国人宿泊者数が、10 年前の平成 16 年度の約 7 倍、7 万 7,724 人となっており、日本独特の「和」や「雪」などの魅力が外国人に評価されているものだと思います。

地域活性化には「地域外の人々」の力が必要だとよく言われます。こうした外国人旅行者もそのような「地域外の人々」にあたるのではないのでしょうか。現地の人には当たり前で見過ごされてきた地域の魅力が、外国人旅行者の視点や発想により新たに発掘され、地域の価値を再認識し、誇りにつながっていくのではないかと期待するところでもあります。

高齢化、少子化が急速に同時進行する中、われわれ町村にとって、「地方創生」が最重要課題となっております。町村はそれぞれが有する地域資源や、置かれた条件に応じて、農山漁村地域を守り発展させ、集落を維持し、住民の暮らしを充実させる施策を懸命に展開しているところです。こうした中、今後さらなる増加が期待される訪日外国人旅行者をいかにして地域に呼び込み、地域の活性化につなげていくかも今後の重要な課題であると言えるのではないのでしょうか。